**酉蓮社（旧増上寺報恩蔵）蔵嘉興版大蔵経目録データベース**

公益財団法人東洋文庫 主幹研究員

會 谷　佳 光

**はじめに（2020年原序）**

　本データベースは、酉蓮社が所蔵する嘉興版大蔵経の悉皆調査に基づいて作成・整理した書誌情報をデータベース化したものである。

酉蓮社所蔵の嘉興蔵は、『大正新脩大蔵経』（以下「大正蔵」と称す）編纂の際、その底本・校本として、「增上寺報恩藏」の名で多くの経典が採録されたことで知られている。そこで、本データベースでは、酉蓮社本のうち大正蔵が底本・校本として採用した経典にスキャニングを行い、IIIF化して書誌データとリンクさせた。また、本データベースとは別に、「『大正新脩大蔵経』底本・校本データベース」を構築し、大正蔵に収録される全経典の底本・校本を一覧化したデータベースを作成して、本データベースとリンクさせた。

以下に、本データベースと関連する拙稿を挙げる。適宜ご参照いただきたい。以下に、本データベースと関連する拙稿を挙げる。適宜ご参照いただきたい。

『酉蓮社 (旧三縁山増上寺山内寺院報恩蔵) 収蔵嘉興版大蔵経目録』（酉蓮社、2012年3月。<http://doi.org/10.24739/00006484>）

『旧三縁山増上寺山内寺院・報恩蔵酉蓮社志稿』（酉蓮社、2012年9月。<http://doi.org/10.24739/00006483>）

「「増上寺報恩蔵（酉蓮社）と『大正新脩大蔵経』の編纂」（『仏教史学研究』第60巻第2 号、2018年3 月）

「『大正新脩大蔵経』の初版・再刊・普及版の刊行をめぐって」（『東洋文庫書報』第51号、2020年3月。<http://id.nii.ac.jp/1629/00007370/>）

「『大正新脩大蔵経』の底本と校本―巻末「略符」・『大正新脩大蔵経勘同目録』・脚注の分析を通して」（東洋文庫リポジトリERNEST 2019年度科学研究費補助金 研究成果、2020年3 月。<http://id.nii.ac.jp/1629/00007257/>）

最後に、酉蓮社本の悉皆調査、およびスキャニングによる画像データ作成にあたっては、酉蓮社の青木照憲住職、細川聡洋副住職にひとかたならぬご協力を賜った。また、本目録のデータベース化にあたっては、東京大学情報基盤センター助教の中村覚氏に、システム開発、酉蓮社本の画像のIIIF化などを実施いただき、全面的にご支援いただいた。ここに記して、深甚の謝意を表したい。

本データベースは、JSPS科研費[18K00073](https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-18K00073/)、[21H04345](https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-21H04345/)の助成を受けたものである。

2020年8月19日記

**2022年度改訂序**

　本データベースは、[酉蓮社](https://u-renja.info/u-renja/)が所蔵する嘉興版大蔵経の悉皆調査によって作成・整理した書誌情報をもとに、2020年8月に東京大学史料編纂所助教の中村覚氏の協力を得てデータベース化を行ったものである。

2021年度、これを活用・拡充するために、基盤研究(A)「漢文大蔵経の文献学的研究基盤の構築：『大正新脩大蔵経』底本・校本DBの活用と拡充」（[21H04345](https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-21H04345/)）を獲得して、システムの整備と高精細画像への差し替えを行った上で、2021年7月6日に一般公開した。

本科研のメンバーは、下記のとおりである。

研究代表者

[會谷佳光](https://researchmap.jp/aitani-0001)（東洋文庫研究員）

研究分担者

[相原佳之](https://researchmap.jp/aiharayoshiyuki)（東洋文庫研究員）

[中村　覚](https://researchmap.jp/nakamura.satoru)（東京大学史料編纂所助教）

[宮崎展昌](https://researchmap.jp/tensho_miyazaki)（鶴見大学仏教文化研究所准教授）

[清水信子](https://researchmap.jp/nobucos)（東洋文庫研究員）

本科研では、酉蓮社の嘉興蔵（正蔵1418冊）を8000万画素のカメラを使ってデジタル撮影してIIIF規格で公開することを計画している。2022年度のリニューアルでは、2021年度に撮影した335点33,330コマ（全42函309冊）の画像データを新たに公開した。

また、2021年1～3月、[SAT大蔵経テキストデータベース研究会](https://21dzk.l.u-tokyo.ac.jp/SAT/)が酉蓮社本『放光般若波羅蜜経』等73冊のデジタル化を実施し（注）、同年9月、IIIF規格に準拠した「[酉蓮社所蔵　万暦版大蔵経（嘉興蔵）](https://dzkimgs.l.u-tokyo.ac.jp/omekas/s/yurenja_kkz/page/view)」サイトを公開した。

本データベースでは、SAT大蔵経テキストデータベース研究会がすでに撮影・公開した経典については重複して撮影せず、2022年度のリニューアルの際にデータベース連携を行って、本データベースでもSAT撮影の画像を表示できるようにした。

本データベースでは、当初より「書名目録」（経典単位の書誌データ）においてスキャニング画像を閲覧することができたが、新たに「所在」（現在の酉蓮社における収蔵場所を表す）において冊ごとの画像データを表示できるようにし、「詳細目録」（巻単位の詳細データ）において巻ごとの画像データを表示できるようにした。

今後も酉蓮社本のデジタル撮影を継続し、2024年度までに正蔵1418冊の撮影し、本データベースにて公開するとともに、より使いやすいものに改修していく予定である。

最後に、酉蓮社本のデジタル撮影にあたっては、酉蓮社の青木照憲住職、細川聡洋副住職にひとかたならぬご協力を賜った。また、「酉蓮社所蔵　万暦版大蔵経（嘉興蔵）」とのデータ連携にあたっては、一般財団法人人文情報学研究所の永﨑研宣主席研究員にご高配を賜った。ここに記して、深甚の謝意を表したい。

本データベースは、JSPS科研費[21H04345](https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-21H04345/)の助成を受けたものである。

公益財団法人東洋文庫 主幹研究員

會 谷　佳 光

2022年10月8日記

（注）SAT大蔵経データベース研究会が撮影したのは、『放光般若波羅蜜経』30巻、東晋仏陀跋陀羅等訳『大方広仏華厳経』60巻、唐実叉難陀訳『大方広仏華厳経』80巻（巻八十末に唐般若訳『大方広仏華厳経』卷四十を重複して混入する）、『大般涅槃経』40巻、『大般涅槃経後分』2巻、『仏説長阿含経』22巻、『瑜伽師地論』100巻、『一切経音義』26巻。

---------------------------以下、中村さんへ---------------------------

※「はじめに」は、PDF形式ではなく、クリックすると、サイトに直接表示される形で開くようにしてください。「はじめに」中のハイパーリンクは、それぞれのリンク先が開くようにしてください。

※黄色のマーカー部分は、下記のリンクを張ってください。

**＜検証用サイトのURL＞（本環境のURLに変更してください）**

書名目録：https://dev-urenja.netlify.app/search

所在：https://dev-urenja.netlify.app/tree

詳細目録：https://dev-urenja.netlify.app/search/advanced

放光般若波羅蜜経：https://dev-urenja.netlify.app/search?main%5Bquery%5D=U0002&main%5Bpage%5D=1

大方広仏華厳経：https://dev-urenja.netlify.app/search?main%5Bquery%5D=U0084&main%5Bpage%5D=1

大般涅槃経後分：https://dev-urenja.netlify.app/search/default?main%5BrefinementList%5D%5B%E9%80%9A%E7%95%AA%5D%5B0%5D=114

仏説長阿含経：https://dev-urenja.netlify.app/search?main%5Bquery%5D=U0541&main%5Bpage%5D=1

瑜伽師地論：https://dev-urenja.netlify.app/search?main%5Bquery%5D=U1164&main%5Bpage%5D=1

一切経音義：https://dev-urenja.netlify.app/search?main%5Bquery%5D=U1598&main%5Bpage%5D=1

※凡例は、これから作り直します。

2022年10月8日　會谷